

会長からのお願い

「健康長寿社会を目指す委員会」主催のパネルディスカッションにぜひご参加ください

平素より神奈川県内科医学会の活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、過日案内状をご送付致しましたが、表記委員会主催のパネルディスカッション「安楽死を考える」を10月17日16時より県総合医療会館7階講堂で開催します。本委員会は長寿だけではなく死もテーマの一つに掲げて活動しています。今回は高見沢委員長の発案で安楽死をテーマとして医療者、生命倫理学者、東西の宗教家を交えて討論する予定です。安楽死についてじっくりと考える良い機会だと思います。ご参加をお願い申し上げます。

私たち医師は、仏教でいうところの「四苦（生老病死）」すべてに関わる宿命にあります。“生”については産科医や新生児科医にその役割を委ねています。高齢社会を迎え“老”の問題は内科医にとっては現在最大の悩みのタネであり、早急に対応や対策を講じなければならない喫緊の課題です。“病”については医学生の間から教育を受け、医師になってからはその病態や治療を探るべく研究を重ね、さらに日々の臨床で悩む患者さんたちを助けようと努力しています。いわば医師の生業として“病”に対峙しています。

では“死”はどうでしょうか。私たちは医学部の講義で死について学んでいません。臨床の現場に出て、先輩を見習いながら死への対応を体験的に身につけてきた方がほとんどではな

いでしょうか。確かに患者さんの死に遭遇した時は、死に対して真摯に向き合います。しかし、死について改めて突き詰めて考えたことがあるでしょうか。死は科学では解決しきれない問題を含んでおり、本質を語る手段として宗教や哲学の素養も必要になるでしょう。

さらに、安楽死については昔から多くの議論がありました。過去には法律に結論を求める事例もありました。今回の企画のきっかけになったテレビ番組もずいぶん話題になりました。最近では京都の ALS 患者さんの事件（敢えて事件と言います）もあります。ドクターキリコをどのように捉えればよいのでしょうか。

「安楽死は認めない」というのが世の趨勢ですが、もっと突っ込んだ議論が必要です。私たち内科医にはいかなる状況であろうとも掛け替えのない「ヒトの生命を救う」という使命があり、これは医療の本質です。その意味では安楽死はその対極に位置するわけで、安楽死の是非を真剣に考えることは、医療とは何かを熟考することに他なりません。

安楽死について真面目に話し合ってみませんか。ぜひ本講演会にご参加を戴きますよう、会長からお願いを申し上げます。

2020年9月3日

神奈川県内科医学会

会長 金森 晃